

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で当ホームの理念をリビングや事務所に掲示し、職員全員で共有できるようにしています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が同じ目線で利用者に接して、その人らしい時間を共有している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	推進委員会等の報告や地域での交流会等での説明や、掲示により取り組んでいます。	
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶の奨励・小学校との交流会により、生徒等が気軽に出入りしています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館主催の盆栽教室参加等地域の人達との交流を深めています。	

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>推進委員会等の自治会長さんの参加により、近隣の高齢者の状況がわかり、独居老人への食事サービス等の参加をよていしています。</p>		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価に関して、会議等で指導・指摘内容を検討、実施・尚内容は掲示しています。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>民生委員・包括支援センター・自治会長さんの意見を参考にサービスの向上に役立てています。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>毎年、1名認知症対応型実務者研修に参加、福祉協議会との連携を図り、職員への伝達講習等で情報を共有しています。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修(実見社研修等)での伝達講習の中での成年後見人制度の勉強会や、人権援護の家族への説明を行っています。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止については防止委員会から、職員と家族への説明を実施しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時また退所時には、重要事項及び運営規程の分かりやすい説明と職員への理解のため会議等で実施</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情対応の掲示と各行政窓口への掲示、投書箱等の設置により運営に反映している</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>めぐみ通信・定期的な電話での近況方向等実施している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱・苦情連絡先の掲示と口頭による意見等の情報収集している</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会議及びカンファ等の中での議題を職員に決めてもらっている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の変化・家族の都合等により、絶えず柔軟に対応できるようフリーなスタッフ(リーダー)を配置している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>単一のユニットなので移動等はなく、やめたい・やめようとしているスタッフについては、管理者とのコミュニケーションにより事前に情報をキャッチし、相談に応じ対応している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の身体的・精神的苦痛のないよう、また性別・年齢による差別はなく現実に60歳以上の職員が業務している。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>入居者に関して、人権の尊重等は理念であり、介護現場ではそれが基本であることは、教育することでなく周知しています。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望があれば外部研修を奨励、実務者研修が一番良いのですが、毎年選考からはずれ、1名の参加者からの研修報告会等の伝達講習を実施しています。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>実務者研修でのネットワークを利用し、情報交換してその他の施設の良い部分をみんなで検討し、質の向上につとめています。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎月の定例会議後の懇親会や悩み等の情報収集・ストレスの事前の兆候の把握による対応。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>常日頃、職員の建設的な意見を出来る限り採用し、それに答えてきているが、欠点より利点を助長するように働きかけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者さんとの声かけの中で、特に不穏状態や不安状態を察知し、時間をかけてその人の歴史を聞き、相談に応じている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>日常、その人のリズムや行動の変化を察知すると同時に、家族への連絡等や長時間を共有しながら、他の利用者さんとのネットワークを保って対応する。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんげに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家庭での生活リズムや好きなもの等利用者さんの歴史と今を家族と情報交換し、ゆっくりとした間合いで対応する。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者さんとの目線で、また自然体様の接し方に努め、いかにも介護しているというやせでなく、偽家族を徹底し、喜怒哀楽は家族につきいもので、子として、孫として支えあう姿勢を維持する。</p>	

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方々は、包み隠さず情報を交換し、家族同様の目線で接し、差さえあっていく。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	行事・誕生会等の参加への進めや面会時での緊密な情報交換と家族の一員の立場で接し、支援する。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	お仏壇や、食事セット洗面道具や家具を出来るだけ家にいた雰囲気作りをして支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	集団リハ・レクリエーション等の集団での関係把握・食事時間でのコミュニケーションの促進等で日頃から孤立感を持たない支援をしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所しても、退所先の利用者さんと訪問(老人ホーム・病院)を実施ご家族からの近況報告の収集に努める。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>絶えず、マンツーマンの時間を共有し、希望(食べ物や行きたいところ、今一番したいこと)を聴きたい実行の検討をする。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴を把握し、それぞれの生き方や今からの設計を利用者さんとともに立てている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1日のスケジュール・心身の変化・身体的変化を把握して、支援している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所時の本人、家族の希望を勘案し、3ヶ月に1回での評価・身体的・精神的変化を把握し、介護計画に反映するようにしている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>評価から見直しを繰り返し、本人のフットワークの変化を把握し、対応をスタッフの意見交換により介護計画を作成している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し 情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌 介護記録からの情報とそれに基づく 各スタッフの意見を共有しながら介護計画を立てている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の事情等により 事務手続きや通院・入退院を実施している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化 教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向で、保護課や民生委員の協力等による小学校での交流会等実施。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向で、他施設の見学や事業者への案内を実施している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	過去、権利擁護等の事例がなく、要望があれば地域包括センターと協働したい。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には定期的に同行しており 安定期には2週に1回の往診を受けています。		

グループホーム めぐみ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の脳神経外科・循環器内科に相談し受診出来るようにしている		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師・准看護師の職員に絶えず、変化や不穏兆候がみられると申し送りして、日常管理をしています。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、殆ど当ホームからの移送で、主治医・担当看護師へのアナムネや退院時の留意点を確認している。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の利用者さんに関しては、絶えず協力病院との連絡がとれるようオンコール)しており、全員で緊急体制を敷いている。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者に関しては、協力医院主治医、また在宅医療専門とのオンコール体制により、対応している。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設又は病院への場合、本人・家族に同行し、生活状況・心身の状況等を担当医師若しくは担当者に、アナムネをして文章化し、転証を発行する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いや呼称の気遣い、生活歴の機密保持を順守して支援している。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの個性を把握し、本人の希望するものを聞き、本人に決定させるよう支援する。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のそれぞれのペースにあわせ、1日の希望するスケジュールをきめて支援する。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望により美容院に同行したり美容師さんに訪問していただいています。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>材料で、それぞれの好みを聴き(例煮者・フライ等)、調理する。また食前・食後の準備は一緒に片付けている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>家族からの希望や本人の好みを聞き、それぞれのメニューを立てている。</p>	

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者さんには出来るだけトイレでの排泄を励行、パターン化した時間に自力でトイレの使用をしていただきます。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として、曜日はきめているが、本人の希望にあわせている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室は、いつも就寝できるように整理整頓しており、利用者の個々の就寝リズムを把握しているので時間帯に自然誘導する。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力に応じて、1日の中で役割を分担(食前食後の片付け、植木の世話、小動物(犬)の世話等)している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解できる人は千円単位で持っているようで、買い物・美容院等に自由に使えるようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の近所の公園・玄関前での日なたごっこ・油山へのドライブ・花見等を実施しています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	さくら・コスモス園・植物園等への見学や初詣やドント焼きの家族との参加等支援している。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・贈り物のお礼の支援や遠隔地の家族への連絡の支援を実施		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人・部下等の訪問が多く、その人たちとの共有時間を邪魔せぬ時間の接触（一緒にスタッフとお茶等かたらいの時間）		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束なしの介護は原則として全員共有している。但し医学的根拠で主治医の許可により万やむを得ない場合はスタッフに拘束委員会から指示あり		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は各個室は施錠なしを厳守している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は殆どが居間にいるが、例外的に部屋にいる人は、たえず所在確認と異変はないかの確認と把握。夜間は原則2時間に1回巡視ですが、音等の変化に注意している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品に関しては、就寝時に管理。火気や金属（ナイフ等）は日常的に禁止しています。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行注意の利用者の把握（転倒防止）・嚙下なる利用者の把握・徘徊癖のある利用者への見守り。防災マニュアルの把握等の情報徹底。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	嚔下 転倒等の事故対応は、全員に指導・主治医への迅速な連絡による指示		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の人への避難の協力要請とマニュアルの指示実行の訓練の実施。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	それぞれの利用者のリスクを家族に説明（疾病や生活リズムの変化に伴うもの）し、平穏で穏やかな日常の提供の工夫を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの心身の変化や顕著な異常が予測される、利用者さんに関しては、事前に主治医に事前連絡し、異常が発生した時の緊急連絡網と夜間の待機者（看護師・准看護師・監視者）への迅速な対応。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正確な服用・薬の効能の把握・服用による変化の注意と服薬の変更時期の変化の注意。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維類や消化の良い食材を調理したメニュー等、散歩や体操により全身状態の把握につとめている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず口腔ケアを実施している。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表で水分補給や食事量を記載し、介護記録との状況を把握し支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアル等によりスタッフに行き届いている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の清潔意識と食材は、一括仕入れでなく店頭にて出来るだけ新鮮な物を買っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の人が入りやすいように玄関前にベンチや花壇を置き、天気の良い日には利用者さんを玄関先でおやつやお茶を食し、近所の人と一緒に話しかけてくれる。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は上記の配置(ベンチ等)・リビングはトップライトで明るくしているが浴室は一般民家の浴槽ですが、出来るだけ明るくしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは狭いが、逆に近い距離で過ごしている。		

グループホーム めぐみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の家族から好きなものをもってきてもらい(椅子・湯のみほか)		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の交換は定期的に交換し、加湿器等は乾燥時に設置(エアコンの始動時等)結露防止や湯たんぽ使用等状況に応じて支援しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝え歩きやトイレは出来るだけ自力で行くよう、また車椅子は必要以外は出来るだけ使用しないよう支援しています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者それぞれの能力を生かし、出来るだけ自立できるように支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	玄関周りや庭が心の安心を与え、静かな雰囲気味わえます。		

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	地域の交流の拠点となることを目指し、利用者の人間性や尊厳を大切にしていきたい理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で考えて理念を作り上げたこともあり、理念の共有は出来ている。また、玄関や事務所の中にも掲示しており、いつでも見られるようにしている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の清掃活動や行事には積極的に参加している。また小学生の訪問も多く、それに伴い近隣の方々の訪問も増えてきた。今後はさらに交流に力を入れていきたいと考えているところである。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず管理者が作成した自己評価票を、職員に見せて、それぞれの意見を聞きながら、最終的なものを作り上げた。前回の要改善だった項目についても、みんなで話し合いを行い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者の家族を始め、自治会長や民生委員、地域包括支援センターの職員等に参加を呼びかけて開催している。会議では事業所の取り組みや行事等を報告しながら、それぞれの意見や感想を出し合う機会となっている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年間行事等を書いたパンフレットを市の窓口に持参したり、集団指導の際に、グループホームの現状を伝えたりしている状況である。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎年誰かが実務者研修を受講しに行っている状況で、その研修の中に、制度について学ぶ時間が組み込まれている。それを受講した職員が、ホーム内で、その内容を伝達するようにしている。また、パンフレット等も準備しており、必要な場合にはそれを用いて説明できるようにしている。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、面会時に話しをするようにしている。あまり面会に来られない家族に対してはめぐみ通信や電話等で報告するようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで、特に家族から不満や苦情は出ていない状況である。直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関には意見箱等も設置して対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ、職員の離職は少ない状況である。もしその場面が出てきても、職員同士で補い合いながら対応する事によって、それほど利用者がダメージを受けることはないと考え。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人のやる気や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々の業務の中やカンファレンス等の時間を用いて、利用者に対する人権や尊厳について、指導を行っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実務者研修に毎年1~2名程、参加してもらっている(現在実務者研修修了者は3名)。また、外部での研修案内等を見て、興味があるものについては、職員がそれぞれ申し出て、参加するようにしている。その内容については、後日伝達研修を行い、情報を共有するようにしている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列のグループホームとの交流はあるが、他の法人のグループホームとの交流は今のところ行っていない状況である。</p>	○	<p>事業所の質の確保や地域全体の介護力の向上のためには、近隣の同業者との交流や連携が不可欠であることを管理者が認識し、職員同士の交流や連携を行えるような具体的な取り組みがなされていくことに期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに余裕がある場合には、体験入居を利用してもらったりホーム側から事前に何度も面会に行く等して、徐々に馴染んでいけるような配慮や工夫を行っている。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	それぞれに役割を持ってもらうように働きかけをおこなっている。職員と一緒に何かすることもあるが、何にでも手を出すのではなく、出来ることは行なってもらったり逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、その人の思いや意向を引き出すよう心がけている。意向の把握が困難な利用者については、家族にも話を聞きながら、本人の意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンス等で、職員で話し合いながら意見を出し合ったものを、計画作成担当者が最終的にまとめて作成している。家族の意見についても面会時に聞いて、それらを反映させたケアプランを作成しており出来たものを提示し、同意をもらっている。	○	サービス担当者会議という形での会議が行われていないため、会議録も残されていない状況である。今後は、出来れば家族等を交えた上で会議を開催し、きちんと書類に残していくようにすることが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにしている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なかを考えながら、状況に合わせて支援している。受診の介助や買い物等、臨機応変に対応している。また、遠隔地に住む家族が面会に来た際の宿泊等も対応できるようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの馴染みの関係が崩れないように、元々のかかりつけ医への受診を支援している。また状況によっては往診をしてもらうことも可能である。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設当初から入居している利用者については、契約時に同意を取っていないが、必要な状況になりそうな時に、説明して同意をもらうようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常々プライバシーを守ることにっては、注意して心がけているが、今回、利用者に対する言葉かけが命令口調になる等不適切なところが見られた。	○	普段から十分に気をつけて対応している部分だと思うが、たまたまそのような場面に遭遇してしまった。今後は「たまたま」ということがないように対応していくことが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいはしないように対応している。スケジュールも特に決めておらず、食事の時間等もなるべくそれぞれのペースに合わせて対応するようにしている。		

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は月～金曜に沸かしており、利用者の希望時に入浴できるようにしている。それ以外の曜日でも、状況に合わせて対応している。入浴を拒否する利用者もいるが、無理強いせず、言葉かけでうまく誘導するように心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や気持ちを引き出し、その人の特性に合わせて、一人ひとりの力を活かせる場面を提供するようにしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、プロ野球観戦に出掛けたり、コスモスを見に行く等、ドライブを楽しんだりする機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切鍵をかけないようにしており、職員による見守りにて対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。また地域の方々の協力も得られるように、日頃よりお願いをしている。		今月、また避難訓練を行う予定のようなので、その時に再度夜間想定した訓練を行っておくことが望まれる。

グループホーム めぐみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	正確なカロリー計算までは行っていないが、バランスのよいメニューづくりを心がけている。また食事摂取量や水分量の確保には十分気を配っており、おおよその摂取量を記録に残すようにしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやイス、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		